



被災の千葉・防潮林再生を

伊那 NPO、ボランティア募る



津波でクロマツなどが枯れたり傾いたりしている防潮林＝千葉県山武市蓮沼(森のライフスタイル研究所提供)

森林整備を進めるNPO法人「森のライフスタイル研究所」(本部・伊那市)は27日から、東日本大震災で津波被害を受けた千葉・九十九里浜の防潮林の再生に取り組み。塩害で枯れた木が多いため、首都圏などでボランティアを募り、残った木を育てて植林もする。竹垣英信所長(東京)は「森林整備を通して復興を支援したい」としている。

対象は、千葉県が管理する山武市蓮沼の防潮林60㍎。研究所と同県は2日、地域の森林整備を支援する協定を結んだ。同県北部林業事務所によると、津波被害を受けた防潮林の再生が目的の協定は初めて。期間は5年で整備対象は順次広げていきたい考えだ。

山武市によると、市内では津波で9・4平方㍎が浸水し、1人が死亡。同事務所によると、防潮林のクロマツなどは折れたり傾いたりし、水が引いた後に塩害で枯れた木も少なくないという。

ボランティアの作業は、生きている木を切らないよう目印のテープを巻くほか、枯れた木の伐採、林内に流されてきた木の搬出などを予定。来年3月に苗木を植え、毎年夏に下草を刈って管理する。

同研究所が首都圏の若手らを募って佐久市大沢で進める森林整備や、夏に伊那市で開いてきた子ども向けのキャンプには、千葉県からの参加者もいるという。今回は、こう

した人たちのほか都内の企業などにも参加を呼び掛けており、竹垣所長は「長野県内の山林に目を向けてもらうきっかけにもしたい」と話す。

作業は当面、3回計画し、27、28日はそれぞれ40人前後が参加する予定。9月3日の参加者を26日まで募る。東京(996)へ。

・新宿に集合し、現地に行く。解散も新宿。問い合わせは同研究所(80265・74・7)